

内閣府だより

沖縄大学にて「地域再生システム論」開講

2009年3月5日～9日の5日間



講義を行う内閣府地域再生事業推進室企画官の木村俊昭氏

地域再生には、それを支えていく人材・ネットワークづくりが必須といえます。2006年より、内閣府が中心となり、全国各地の大学で「地域再生システム論」が開講されつつあります。大学を地域の「知の拠点」として位置づけ地域課題を考えていきます。今回、沖縄大学で開講されました。

沖縄大学では「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」という基本理念のもと、これまで土曜教養講座、移動市民大

学などを開催してきました。土曜教養講座は31年目、開催回数は430回を超えています。

2008年の沖縄大学創立50周年記念式典では、新たな理念「地域共創・未来共創の大学へ」を掲げ、これまでの理念を継承しつつ、地域と共に持続可能な社会、未来を創る大学へとさらに進化することを宣言しました。そして、その第一歩として内閣府の協力のもと、「地域再生システム論」を開講することになりました。

3月5日から9日までの5日間、平日午後1時から6時までの長時間の講義にもかかわらず、延べ1000名の地域の方々に参加していただきました。地域が疲弊しているといわれて久しいですが、本当にそうなのでしょ

か。沖縄大学で開講するこの講義では、地域でのさまざまな取り組みを紹介し、地域おこしに必要な構造と特性を明らかにし、新たな社会システム構築につなげることを目的として設定しました。その根底には、「もちろん地域は元気なのだ」という認識があります。

今回のテーマは、「海」「農」「観光」。地域再生のヒント、地域で活動する意義、ネットワーク形成などの場として講義を位置づけました。講義では、地域に存在する資源を活用し、地域を活性化するための方策について、省庁の行政担当者、地域再生事業のリーダー、大学教員を講師に迎え、今後の方向性について討議しました。

5つのテーマ 地域再生をめざして 里海（イノー）の再生に取り組む 農の再生に取り組む 地域農水産物を活用した特産品の開発 豊かな自然、歴史文化を活用した観光の振興 を中心にして、「イノーの現状とサンゴ礁保全・再生への取り組み」「里海の再生」「全国各地の取り組みから」「沖縄の農と食の再生に取り組む」「世界遺産と地域振興」「今こそ求められる環境保全型観光の促進」といった講義が行われました。またフィールドワークでは、奥武島、セーファウタキを回りました。受講者からは概ね好評で、今年も継続して開講していく予定です。

お問い合わせは、沖縄大学地域貢献室
電話：098・832・3252